

Jリーグ 4月1日より公益社団法人へ移行



Jリーグは、2011年12月1日に内閣府の公益認定等委員会に公益社団法人への移行を申請し、このたび、2012年3月22日付で認定された。Jリーグは、2012年4月1日より社団法人から公益社団法人へ移行する。

理事・監事選任

Jリーグは3月19日に開催した臨時理事会で、大東和美 Jリーグチェアマンを再任した。また、同日に開催された第42回通常総会で、新理事・監事が選任された。

理事・監事	氏名	年齢	所属
チェアマン	大東 和美(おおひがし かずみ)	63	社団法人 日本プロサッカーリーグ
専務理事	中野 幸夫(なかの ゆきお)	56	社団法人 日本プロサッカーリーグ
※理事	井畑 滋(いはた しげる)	60	株式会社 鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長
※理事	上西 康文(うえにし やすふみ)	56	白百合女子大学 事務局長
理事	風間 八宏(かざま やひろ)	50	筑波大学 准教授/蹴球部 監督
理事	金森 喜久男(かなもり きくお)	63	株式会社 ガンバ大阪 代表取締役社長
※理事	亀井 文雄(かめい ふみお)	58	株式会社 愛媛FC 代表取締役社長
理事	武田 信平(たけだ しんぺい)	62	株式会社 川崎フロンターレ 代表取締役社長
理事	田中 道博(たなか みちひろ)	53	財団法人 日本サッカー協会 常務理事兼事務局長
理事	橋本 光夫(はしもと みつお)	62	株式会社 三菱自動車フットボールクラブ 代表取締役社長
理事	原 博実(はら ひろみ)	53	財団法人 日本サッカー協会 理事/技術委員長(強化)
理事	福島 義広(ふくしま よしひろ)	61	株式会社 名古屋グランパスエイト 代表取締役専務
理事	傍士 銃太(はろじ せんた)	56	一般財団法人 日本経済研究所 専務理事
理事	松崎 康弘(まつざき やすひろ)	58	財団法人 日本サッカー協会 理事/審判委員長
理事	宮 裕(みや ゆたか)	56	有限責任 あずさ監査法人 パートナー・公認会計士
理事	村井 満(むらい みつる)	52	RGF Hong Kong Limited(リクルートアジア統括法人) 取締役社長
理事	ヨーコ セッターランド	42	有限会社 オフィスブロンズ 取締役社長
※監事	味村 隆司(あじむら たかし)	53	株式会社 日本国際映画著作権協会 代表取締役
※監事	吉田 修己(よしだ おさみ)	61	有限責任 監査法人トーマツ

※印 新任 理事、監事とも五十首順 年齢は2012年3月19日時点



後列左から、吉田修己監事、村井満理事、上西康文理事、傍士銃太理事。中列左から、ヨーコセッターランド理事、宮裕理事、亀井文雄理事、福島義広理事、井畑滋理事、味村隆司監事。前列左から、武田信平理事、金森喜久男理事、大東和美チェアマン、中野幸夫専務理事、橋本光夫理事(2012年3月19日撮影) ※風間八宏理事、田中道博理事、原博実理事、松崎康弘理事は撮影時欠席

2011年度(平成23年度) 収支決算について

Jリーグは3月19日に開催した理事会・総会で、2011年度(平成23年度)のJリーグ収支決算を承認した。2011年度は、9カ月(4-12月)決算。なお、決算額は一般会計と特別会計を合算した総括表で表示している。

2011年度(平成23年度) 収支予算(総括表)				単位: 百万円
科目	2011決算 9カ月(4-12月) (A)	2011修正予算 9カ月(4-12月) (B)	2011当初予算 12カ月(4-3月) (C)	差額 (A-B)
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入	0	0	0	0
②入金収入	0	0	0	0
③会費収入	1,126	1,126	1,125	0
④事業収入	8,762	8,982	10,857	▲220
協賛金収入	3,054	3,204	4,314	▲150
Jリーグ主管試合入場料収入	110	100	170	10
放送権料収入	4,340	4,394	4,849	▲54
商品化権料収入	404	450	600	▲16
その他	855	834	924	21
事業活動収入計	9,888	10,108	11,982	▲220
2. 事業活動支出				
①事業費支出	9,266	9,450	11,263	▲184
リーグ運営経費支出	1,963	2,002	2,790	▲39
クラブへの配分金	6,434	6,420	7,028	14
その他	869	1,027	1,446	▲158
②管理費支出	430	434	590	▲4
事業活動支出計	9,697	9,884	11,853	▲188
事業活動収支差額	191	224	129	▲32
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
	33	25	230	8
2. 投資活動支出				
	17	18	24	0
投資活動収支差額	16	7	206	9
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
	0	0	0	0
2. 財務活動支出				
	13	0	0	13
財務活動収支差額	▲13	0	0	▲13
IV 予備費支出				
	0	75	100	▲75
当期収支差額	194	156	235	38
前期繰越収支差額	1,090	1,090	783	0
次期繰越収支差額	1,284	1,246	1,019	38

※四捨五入により、一部に合計が合わない箇所があります。

実行委員・参与選任について

Jリーグは3月19日に開催した理事会で、ロアッソ熊本の実行委員を岡英生氏から池谷友良(いけや ともしよ)氏へ変更することを承認した。また、岡氏の実行委員退任に伴い、同氏を参与に選任することを決定した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
ロアッソ熊本	岡 英生 (株)アスリートクラブ熊本 前代表取締役	池谷 友良 (株)アスリートクラブ熊本 代表取締役

参与	
岡 英生: (株)アスリートクラブ熊本 前代表取締役 実行委員: 2008年5月~12年3月(在籍期間3年10カ月)	

敬称略

参与選任について

Jリーグは3月19日に開催した臨時理事会で、武藤泰明氏の理事退任に伴い、同氏を参与に選任した。

参与	
武藤 泰明: 前社団法人 日本プロサッカーリーグ 理事 理事: 2004年6月~12年3月(在籍期間7年9カ月) 経営諮問委員長: 1999年12月~2012年1月(在籍期間12年1カ月)	

敬称略

AFCチャンピオンズリーグ2012がスタート



アジアのクラブチャンピオンを決めるAFCチャンピオンズリーグ2012(ACL)が、3月6、7日に開幕した。日本からは、昨シーズンのJ1リーグ戦で1~3位の柏レイソル、名古屋グランパス、ガンバ大阪、第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝のFC東京が参加。

大会は32チームを4チームずつ8グループに分けたホーム&アウェイのグループマッチを行い、各グループの上位2チームがラウンド16に

進出。ラウンド16は1回戦制で、準々決勝と準決勝はホーム&アウェイ。決勝は11月9日(金)、または同10日(土)に、進出クラブのいずれかのホームで行われる。

グループマッチは3月21日までに各チームが2試合を消化。ACL初出場のF東京は、初戦となったアウェイのブリスベン・ローア(オーストラリア)戦に2-0と快勝するなど1勝1分と好スタート。同じく初出場の柏は第2戦で、韓国Kリーグチャンピオンの全北現代モータースに、ホームで5-1と大勝して1勝1敗とした。



©J.LEAGUE PHOTOS

第2戦の蔚山現代(韓国)戦で1得点したF東京の梶山

名古屋は2引き分け、G大阪は2敗。

なお、優勝チームはAFC(アジアサッカー連盟)を代表して、12月6日(木)~16日(日)に開催のTOYOTAプレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2012に出場する。

WORLD SPORT GROUPと海外における放送権契約更新を決定

Jリーグは、World Sport Group [WSG/本社:シンガポール/代表:シヤマス オブライエン氏(Mr.Seamus O'Brien)]との、2012~14シーズンの海外における試合放送権契約更新を決定した。基本放送内容はJリーグ ディビジョン1の全公式試合(リーグ戦)で、日本を除く全世界での放送権(サブライセンス権を含む)。

WSG東アジア地域副代表のトム スミス氏は「Jリーグはアジアで最も成功したプロサッカーリーグとして、エキサイティングで、競争力のあるチームによる試合を提供している。世界レベルでの視聴者を増やすために、Jリーグと協力を続けていくことを楽しみにしている」と語った。またJリーグの大東和美チェアマンは「今後もアジア各国との関係を深めていくとともに、Jリーグの試合を各国で放送してもらえるように働き掛けていく。そのためにもWSGの協力が不可欠であり、今まで以上に強いパートナーシップを築き、Jリーグの世界的価値を高めていきたい」と述べた。

株式会社ウェザーニューズとサプライヤー契約を締結 ~Jリーグ公式試合の気象情報・開催判断支援情報を提供~

Jリーグは、株式会社ウェザーニューズ(所在地:東京都港区、代表取締役社長:草開千仁、以下ウェザーニューズ)とサプライヤー契約を締結することを決定した。この契約により、JリーグはウェザーニューズよりJリーグ主管の全試合、およびJ1リーグ戦、J2リーグ戦ならびにJリーグヤマザキナビスコカップなどの公式試合において、大雨、台風、雷など試合会場の気象情報の提供を受けることになり、これを活用して、より一層の円滑な試合運営と選手、スタッフ、ファン・サポーターの安全確保に努める。サービス提供期間は2012年3月1日~2013年2月28日(木)。

都道府県東京事務所とJリーグ・Jクラブによる Jリーグ開幕 PRイベント実施

都道府県東京事務所(東京都千代田区)は3月1~16日に、Jリーグ・Jクラブと共同で、Jリーグ開幕PRイベントを実施した。参加したのは26道府県の31クラブ。各道府県事務所前のショーウィンドーおよび地下通路PRコーナーにおいて、ポスターの他、各クラブが提供したグッズなどを展示した。2012シーズンはJリーグ開幕より20年目を迎える記念すべき年であり、これを機にJリーグ、クラブ、道府県が一体となり、リーグに加盟するクラブを有する道府県のPR活動を行っていく。



ポスターコーナー



事務所ショーウィンドー(佐賀県)

「キヤノンカップ ジュニアサッカー2012」を後援

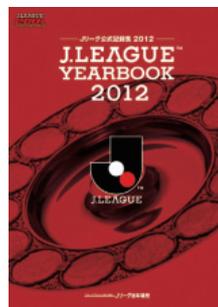
Jリーグは3月19日の理事会で、昨年に引き続き「キヤノンカップ ジュニアサッカー2012」を後援することを決定した。本大会は、少年・少女のサッカー普及・育成およびさまざまな形での交流・親善を目的に開催される。

大会名	キヤノンカップ ジュニアサッカー2012
開催期間・会場	・ファーストステージ 2012年5月・6月 横浜、名古屋、神戸 ・セカンドステージ 2012年6月 横浜 ・国内遠征 2012年7月 大阪
参加チーム	216チーム(予定)
主催	キヤノンカップ ジュニアサッカー実行委員会、株式会社ニッポン放送プロジェクト
主管	横浜サッカー協会、愛知県サッカー協会、兵庫県サッカー協会
特別協賛	キヤノン株式会社

Jリーグ公式チケット販売サービス 「Jリーグチケット」サービス開始



Jリーグは3月1日より、Jリーグの公式ホームページ上から直接、Jリーグ主催試合のチケットが購入できる「Jリーグチケット」のサービスを開始した。このサービスはJリーグチケットングパートナーであるぴあ株式会社(東京都渋谷区、代表取締役社長:矢内廣、以下ぴあ)との取り組みの一環として、ぴあのチケット販売システムについてASP(Application Service Provider)提供を受けて開設。同サービスでは、J1・J2リーグ戦ならびにJリーグヤマザキナビスコカップの全試合をはじめとするJリーグ主催試合のチケットを購入することが可能になり、ファン・サポーターに対して、より利便性の高いサービスを提供することを目指す。サイトのURLは<http://jleague-ticket.jp/>



J.LEAGUE™ YEARBOOK 2012

Jリーグの歴史をこの一冊に凝縮。2011シーズンまでの全記録を網羅したレコードブック。Jクラブデータ(全40クラブ)/ゲームテーブル2011/インデックス(選手/クラブ別外国籍選手一覧/監督/審判)/過去の大会/通算記録などを完全収録。704ページ、A5判並製、定価2,000円(税込)

- 発行: 社団法人 日本プロサッカーリーグ
- 発売: 株式会社 朝日新聞出版
- お問い合わせ: 株式会社 朝日新聞出版 TEL 03-5540-7793 (受付時間/平日10:00~18:00) ホームページ <http://publications.asahi.com/>



J.LEAGUE™ OFFICIAL FANS' GUIDE 2012

J1・J2全40クラブを網羅したファン・サポーター必携の公式ガイド。チェアマンインタビュー/クラブ担当ライターによる全クラブ紹介&選手名鑑/2011プレイバック/あだっちゃん-の全国スタジアムガイドなど、充実コンテンツが満載。292ページ、A4変形判、定価800円(税込)

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

21

柏レイソル



クラブと市民をつなぐ象徴が完成。 街を挙げた具体的な行動の第一歩に



3月11日の開幕戦当日、ゲートのオープニングセレモニーが行われた

©柏レイソル

レイソルは市民の誇り

3月11日の横浜F・マリノス戦、J1王者として迎えるリーグ戦開幕日。柏レイソルのホームスタジアム・日立柏サッカー場に入場ゲートが新設された。「KASHIWA CIVIC PRIDE GATE (カシワ シビック プライド ゲート)」。出迎えるようにチームフラッグが両脇に掲げられ、天井にエンブレム、内側にはクラブマスコットが描かれたゲートを、待ちに待った開幕に心を躍らすレイソルサポーターが次々とくぐってスタジアムに入っていった。

日立柏サッカー場は今シーズンからホームとアウェイのゴール裏スタンドを入れ替え、ホーム側に2階スタンドを新設するなど全体で約3千席増やし、収容数は1万5349人となった。この改修工事に合わせ、柏商工会議所などは来場者がチケットを提示し手荷物検査を受ける入場ゲートの建設を目指していた。同会議所の寺嶋哲生会頭は「ゲートはレイソルと市民をつなぐ象徴的なもの。入場ゲートのネーミングには、レイソルは市民の誇りという意味が込められている」と話す。

これまででは TENT を立てて、入場を行っていたこともあり、ゲート建設の話が持ち上がった。昨年11月に同会議所など6団体と柏市で「日立台グラウンドに入場ゲートを建設する柏市民の会」を設立し、個人は1口5千円、事業所・団体は1口1万円の募金で建設費を賄うことにした。ホームページと、A5サ



寺嶋哲生氏

イズのパンフレット1万2500枚以上を試合日などに配り告知。個人1,183件、事業所・団体240件が協力し、予想以上の反響があった。寺嶋会頭は「優勝効果はあったと思うが、レイソルを愛する人がたくさんいたと実感した」。市民やサポーター同士の口コミで募金の輪が広がったことが、一番大きな要因だった。

完成したゲートは高さ3.5m、幅7.4m、奥行きは3.6m。募金への協力者には三つの特典を用意した。まずはゲートのデザインとネーミングの決定権。「日立台グラウンドに入場ゲートを建設する柏市民の会」の中にデザイン部会を設け、地元のデザイナーや熱狂的サポーターにアイデアを出してもらい、それぞれ候補となる3案を選出。その後、1口1票で募金者が投票して最終的に決めた。次にゲート横に寄贈者銘板をつくり、協力したことを形に残した。払い込み用紙に書いたサインをそのまま刻み、自筆で名前を記すことで、より実感も湧くようにしている。そして、観戦チケットの贈呈。このゲートを通してスタジアムに入場し、チームを応援してもらうためだ。

地元が支え、地域とともに生きる

今回、入場ゲートを市民の手でつくった動機を「レイソルに対し、何かお役に立ちたい気持ちが一番」と寺嶋会頭は語る。クラブはサッカー教室の開催をはじめ、地域や子どもたちのイベントに日頃から関わっている。昨年7月の柏まつりでは、選手が東日本大震災の復興支援のための街頭募金を呼び掛けた。「レイソルがあることに地元民として非常に感謝して

いる。時々行く食堂で選手がトンカツを食べていたりして、ひょんなところで選手と出くわすぜいたくさもある」と表情を緩める寺嶋会頭。ホームタウンならではの交流がある喜びをかみしめている。

ゲートには選手が今シーズン着用するユニフォームと同じように、優勝回数を示す星印が刻まれている。昨シーズンのJ1初制覇は柏の街に明るく、大きな希望を運んでくれた。東日本大震災による福島第一原発事故で、柏市は高い放射線量を記録した。ホットスポットの風評が立ち、暗いニュースで柏の名前が全国に広がった。それだけに、寺嶋会頭は「まさに神様からのプレゼントのようなありがたい話だった。FIFAクラブワールドカップでサントスFC(ブラジル)とも対戦し、世界中に柏の名前が知られた。こんなにうれしいことはない」と声を弾ませた。

当日は関係者約40人が出席して、オープニングセレモニーが開かれた。御手洗尚樹(株)日立柏レイソル代表取締役社長は「成績だけではなく、地域に愛されるクラブ、サポーターに熱く応援されるクラブであり続けたい。このゲートがそれを思い起こすシンボルになる」と感謝の言葉を述べた。地元のファンが支え、クラブが地域とともに生きていくのは、Jリーグの原点。帰りがけに観客の目に入るのゲートに刻まれた「No Reysol, No Life. (レイソルなしでは生きられない)」の文字。ファン・サポーターはもちろん、柏の街に住む人の思いでもあろう。寺嶋会頭は「今回のゲート建設を、街を挙げて具体的に行動する新たな一歩にして、二歩も三歩もお役に立ちたい」と今後を見据えている。

(千葉日報 野田 祐治)



昨年の柏まつりで、選手たちが東日本大震災復興支援の募金を呼び掛けた ©柏レイソル

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号では柏レイソル、愛媛FCと連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



22

愛媛FC



クラブと精神科医療がタイアップ。 病状回復や社会参加に成果



昨年のスカンピオカップでプレーするメンバー。参加者は体力、技術が向上し、考え方も前向きになったという

©愛媛FC

医学界も注目する取り組み

昨年10月に大阪で開催された精神障がい者によるフットサルの全国大会「第4回スカンピオカップ」。全国から16チームが参加した大会に、愛媛から出場した2チーム14人の姿もあった。メンバーは、日頃鍛えた技術を披露しながら競り合い、試合後は互いに健闘をたたえ合った。

彼らがフットサルを始めたのは2008年。松山市の松山記念病院が患者の病状回復や社会参加を促す場にしようと、病院内に精神障がい者を対象としたフットサルの実技講習会を開設。愛媛FCからコーチの派遣を受けて定期的に練習を続け、毎年全国大会にチームを送り出してきた。

競技スポーツがもたらす効果について、松山記念病院の木村尚人院長は「勝敗が本人たちのやる気を引き出し、向上心や学習能力、相互扶助の精神が養われる。患者自身の体調管理能力も上がる」と説明する。

Jクラブと精神科医療がタイアップした取り組みは、先駆けとなったガンバ大阪をはじめ全国に広が



木村尚人氏

りつつある。木村院長は「医療・福祉の分野でも地域と連携した支援が求められている。それは地域密着や社会貢献を掲げるJリーグの理念とも一致する。特定の親会社を持たない県民クラブの愛媛FCと手を携えた取り組みは、スポーツ精神医学界でも注目されている」

と話す。

活動をスタートして4年余り。患者たちには明らかな変化が生まれている。20代のころからうつ病に苦しんできた49歳の男性は、毎週のフットサルに取り組むうちに生活習慣が改善。「互いを気遣う温かい信頼関係が支えになっている」と、頼れる仲間を得たことで日常に張りが出たという。

最初はフットサルのルールも知らないメンバーもいたが、今では試合でゲーム状況を判断しながら互いに声を掛け合い連携したプレーを披露。発足当時からコーチを務めてきた愛媛FC広報の川井光一さんは「無口でコミュニケーションを取るのが苦手だった選手も、自ら進んで守備の仕方を聞きに来るまでになった」と成長ぶりに驚きを隠さない。



川井光一氏

恩返しがあった

体力や技術の向上に加え、考え方も前向きになり、選手らの自主的な活動も活発化。09年には、メンバーの発案で病院内にフットサルサークルを結成。愛媛FCの教室以外にも月2回の自主練習を行うようになった。昨夏には、チームのユニフォームのデザイン決定からオーダーまで、メンバー自らが行ってそろえた。

愛媛FCのホームゲームの前座を務めるなど“大舞台”も経験。愛媛FCが毎年開催しているフットサル大会では、一般チームに交じって試合を行うなど、健常者とプレーで交流

する機会も増えてきた。リーダー役の榎本千恵子さん(36)は「みんな初めて対戦する相手にも気後れすることがなくなったし、いろいろなチームとプレーすることでレベルも上げられる」と笑顔で話す。

フットサルを通じて社会復帰を目指す動きも目立ってきた。昨シーズンは愛媛FCのボランティアスタッフにメンバーから2人が参加。ホームゲームでチケット係や会場誘導を通じて、来場者と触れ合っている。

2年前から働く竹内亜紀さん(36)は、フットサルの大会中に骨折し、松葉づえについて愛媛FCのホームゲームを見に行った際、スタッフに優しく接してもらったのが参加のきっかけだった。「教室でお世話になっている愛媛FCに恩返しがあった。誰かの役に立つことができれば」と笑顔での接客を心掛けている。

竹内さんはことし2月、愛媛マラソンに初挑戦し見事完走。「今でもゴールしたことが信じられないけれど、体力に自信がついた。これからもいろんなことにチャレンジしたい」と意欲を示している。

他にも就労や資格取得を果たしたり、職業訓練に意欲的に取り組むメンバーも増えてきた。川井さんは「僕らはあくまでも、きっかけをつくったに過ぎない。それでも一つアクションを起こすことで、これだけの人が元気になった姿を見ると、少しは地域に還元ができていのかと感じる」と手応えを語る。精神障がい者と地域をつなぎ、社会復帰をサポートする懸け橋となるため、愛媛FCはこれからも息の長い支援を続けていく。

(愛媛新聞社 久賀 大輔)



2012 J.LEAGUE KICK OFF CONFERENCE 開催



© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグは今シーズンから40クラブに。各チームのユニフォームをまとった選手たちが勢ぞろい

「2012 Jリーグキックオフカンファレンス」が3月2日に都内で行われた。シーズン開幕への期待が高まる中で行われる恒例のイベントで、会場にはJリーグパートナー、Jクラブ、メディアの各関係者などが数多く集まり、熱気があふれる中での開催となった。

Jリーグプレゼンテーションでは、大東和美Jリーグチェアマンがステージに立ち、サッカー界を取り巻く昨今の社会状況に触れながら、Jリーグとしての決意、取り組みなどについてスピーチした。内容は「大会のあり方の変更」「ピッチ内外のクオリティー改善」「Jリーグの未来像」という3テーマ。

大会のあり方は、J1昇格プレーオフの導入、そしてJ1リーグ戦を土曜、J2リーグ戦を日曜

に原則固定開催することについて。J1昇格プレーオフ導入の背景には、「共生と競争」という考え方があることを述べた。

ピッチ内外のクオリティー改善では、今シーズンから施行するJリーグクラブライセンス制度に加え、試合の魅力を向上させるための「+Qualityプロジェクト(プラスクオリティープロジェクト)」も紹介。実現に向けて、選手代表の佐藤寿人(サンフレッチェ広島)、監督代表のネルシーニョ(柏レイソル)をはじめ、当日参加した監督・選手全員が「Jリーグ憲章」の選手憲章、監督憲章に署名した。

Jリーグの未来像については、アジアサッカー発展への貢献、育成システムのさらなる充実、地域に根付いたスポーツ振興の強化という

3点の意義を説明した。

大東チェアマンは最後に、Jリーグの決意を表す「TAKE RISK. CHANGE THE GAME.」というフレーズを披露してプレゼンテーションを締めくくった。リスクを恐れず、新たなチャレンジを行い、連携を呼び起こし、局面を変え、枠組みさえも変えていこうという意味が込められ、「Jリーグを愛する全ての皆さまとともに、それぞれのチャレンジを実践し、一人ひとりのアクションによって、新しい時代を切り開いていきたいという願いでもある」と語った。

その後、会場ではリーグ戦開幕カードごとにペアとなったクラブブースや各大会などの記者会見で、メディア関係者が40クラブの選手や監督たちに取材を行った。



© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ憲章に署名した柏のネルシーニョ監督、大東チェアマン、広島の佐藤(左から)



© J.LEAGUE PHOTOS

クラブブースは開幕戦のカードごとに設置。札幌の中山(左)と磐田の駒野が握手



© J.LEAGUE PHOTOS

ヤマザキナビスコカップを前に、左から小笠原(鹿島)、大久保(神戸)、柏木(浦和)、関口(仙台)

